



ピアサポート報告書

2009年2月24日
法政大学FD推進センター

ピアサポート(学生による学生支援)調査結果

2008年7月下旬から実施した、学生による学生支援に関する調査(p.3-5)にご協力いただきまして誠にありがとうございました。大変遅くなりましたが、調査結果の詳細(別冊)と、概要を以下の通りお知らせいたします。

結果の概要

●「知っているけど導入していない」「あまり必要性を感じない」という回答が少ない

これらの回答から推察できることは、「学生による学生支援＝ピアサポート」を導入した場合の効果や、運営方法について、具体的なイメージが持てないために、実施について検討するに至っていないのではないか、ということです。学内の様々な成功事例について知っていただくことで、少なくとも検討していただけるようになるのではないかと思います。

●実際に導入しているところからの回答では…

既にピアサポートを導入している学部や部局からの回答を見る限り、概ね、「プラスの効果」が認められ、「今後も拡大または現状のまま実施」を継続していく方向性が見られます。

成功している事例としては、たとえば情報科学部のRAT (<http://rat.cis.k.hosei.ac.jp/>) や、学生センターの学生支援GP (<http://www.hosei.ac.jp/gakuseishien/index.html>) について、詳細を見ることができます。

なお情報科学部のRAT(Resource Administration Team)は、情報科学部の学生による支援チームで、情報科学部で学ぶ学生の情報資源全般(情報科学部用各種サーバー、ラボ教室など)の活用を支援しています。また授業の基盤環境を維持するために教員への支援も行っています。情報科学部で学ぶためには、全員貸与のノートPCの有効活用、学部のコンピュータネットワーク上の様々な資源へアクセス方法を熟知する必要があり、正規の授業でカバーすることが難しいため、RATの支援が有効に機能しています。

●導入しているケースについての分析

1. 導入型は大別して次の2通り：両者は排他的ではなく、両立しうる

- ①教職員等でカバーできない事を学生にしてもらうことを目的(穴埋め型)；例 総合情報センターなど
- ②導入によって、参加学生自身のスキルが向上することを目的(スキル向上型)；例 CD学部、学生センターなど

2. 活動内容：特に上記①の場合には、支援を必要とする「特定の学生」を対象とするケースが多い

- ・新入生の支援（履修相談や交流促進）
- ・留学生の支援
- ・ゼミ説明会
- ・パソコン指導
- ・特定分野プロジェクト（学生センターGP）

3. 導入方法：期間の長短や形式などは多様

- ・学内設置のブース（短期）
- ・部署／部屋／授業付のTA（長期）
- ・合宿（1～2泊）
- ・プロジェクト（長期）

4. 協力者（学生サポーター）人数，募集時期

大半が10名～20名で実施。実施日1～3か月前から募集開始。

5. 学生に対する報酬

上記1. の①穴埋め型では、金銭等の報酬を伴うことが多く、②スキル向上型では、無報酬のボランティアや、与えるとしても薄謝（図書カード、お弁当など）にとどまることが多い。また後者は、参加学生も金銭目的ではないので、活動を通じて得られる経験やスキルについて、事前に説明し、納得してもらうことが重要と思われる。

＜本アンケート内容＞

学生による学生支援に関するアンケート

回答は原則として、「課」単位でお願いします。ただし教授会（市ヶ谷地区教養教育運営協議会を含む）を管轄する部局においては各教授会担当部局単位でお願いします。その際、教授会執行部と相談のうえ、必要ならば「学科」単位でご回答ください。

回答部局・課

Q1. 「学生による学生支援の制度＝ピアサポート制度」をご存知ですか。

【別紙「ピアサポートとは」を参照してください】

1. 知っている
2. 知らない

Q2. 貴部局で「学生による学生支援の制度＝ピアサポート制度」を導入していますか。

1. 導入している
2. 導入していない【⇒ Q14 へお進みください】

＜Q2. で「1. 導入している」とお答えになった方のみ回答ください＞

Q3. 支援する側の学生の学年は指定していますか。【複数回答可】

1. 学部1年生
2. 学部2年生
3. 学部3年生
4. 学部4年生
5. 大学院修士課程（_____年生）
6. 大学院博士課程（_____年生）
7. 学年は指定していない

Q4. 支援する側の学生は何人ですか（正確な人数がわからない場合は概数で結構です）。

_____人

Q5. 支援する側の学生を募集する期間はいつですか。【複数回答可】

1. 新年度が始まる前（_____月ごろ）
2. 学期が始まる前（_____月ごろ）
3. 年中募集している
4. その他（_____月ごろ）

Q6. 支援する側の学生の所属（学部や研究科など）は限定していますか。

1. 限定している
2. 限定していない

- Q7. 支援する側の学生に対して事前研修を実施していますか。
1. 実施している（以下にどなたが、どのような研修をしているのか、具体的な内容をお書きください）
 2. 実施していない
- Q8. 「学生による学生支援の制度」では具体的にはどのような支援を行っていますか。
- Q9. 支援される学生（対象）はどのような学生ですか。【複数回答可】
1. 新入生
 2. 初心者
 3. その他（_____）
- Q10. この制度を導入してどのような効果がありましたか。
- Q11. この制度を実施する上で問題点はありますか。
1. ある（以下に問題点をお書きください）
 2. ない
- Q12. 支援をしてくれた学生に対して、謝礼などの報酬を与えていますか。
1. 与えている（金額または謝礼内容をお書きください）
 2. 与えていない
 3. 現在は与えていないが、今後は与える予定
- Q13. 「学生による学生支援の制度」について今後の計画（予定）をお教えてください。
1. さらに拡大していく
 2. 現状のままで実施
 3. 必要に応じて、縮小する方向で検討する

<Q2. で「2. 導入していない」とお答えになった方のみ回答ください>

- Q14. 「学生による学生支援の制度」の導入の必要性を感じていますか。
1. 感じている
 2. 感じていない【⇒ Q17 へお進みください】

<Q14. で「1. 感じている」とお答えになった方のみ回答ください>

- Q15. どのようなことを支援内容に含めたいと考えていますか。
- Q16. 「学生による学生支援の制度」を導入する計画はありますか。
1. ある（_____年_____月ごろ）
 2. ない

<Q14. で「2. 感じていない」とお答えになった方のみ回答ください>

- Q17. 必要でないと思われる理由をお聞かせください。

<アンケート依頼時に添付した文書>

ピアサポートとは

一言で言うと、「学生による学生支援」のことです。ピア (peer) とは、“友人・仲間”を意味します。つまりピアサポートは、法政大学（大学院も含む、以下同）の学生が「良き先輩」「良き仲間」として、大学生活における不明な点や不安・悩みなどを抱える法政大学の学生をサポートする、ということです。

履修の仕方や講義内容、各種授業のレポートや試験対策、教職や資格、学内施設の利用の仕方、効率的な時間の使い方、友達作り・新生活への不安の解消法など、学生にとっては先輩や経験者に直接話を聞けたらと思っている事柄が数多くあります。

ピアサポートの大きな特徴の一つは、そのようなニーズに対して、同じ境遇・状況を共にしている「学生の視点」からサポートするという点にあります。

■学内の導入例

学生センター

●新入生サポーター制度

・2007年度より始まった制度で、入学から履修登録までの間、外濠校舎内に新入生サポーターが常駐し、主に学部新入生を対象に、学生生活のアドバイスをしたり、適切な窓口を紹介したりしている。サポーターは2～4年生を対象に、一般公募により確保（例年15名程度）。一定の能力開発研修を受講した上でサポーターとして登録し、のべ11日間にわたり各種相談にのる。相談者は例年100名前後にのぼる。

国際交流センター

●留学生支援プロジェクト

・2008年4月より、「国際交流学生スタッフ (SOICH)」を募り、在学生（留学生・日本人学生）による留学生のサポートを行うプロジェクトを立ち上げた。主なサポート内容は、①海外からの留学生の学生生活がより楽しく充実したものするための支援、②留学生と日本人学生の交流、留学生同士の交流促進のためのイベント実施、などを考えている。

上記の例以外に、「ピアサポート」「学生による学生支援」という意識がなくても、このような取組をしている学部・学科、部局があるものと思われます。

なお、正課（入門ゼミや演習など）での「学生による学生支援」は今回対象にはなりません。あくまで正課外での取り組みが対象となります。

学生による学生支援に関するアンケート 集計結果

【アンケート実施時期】

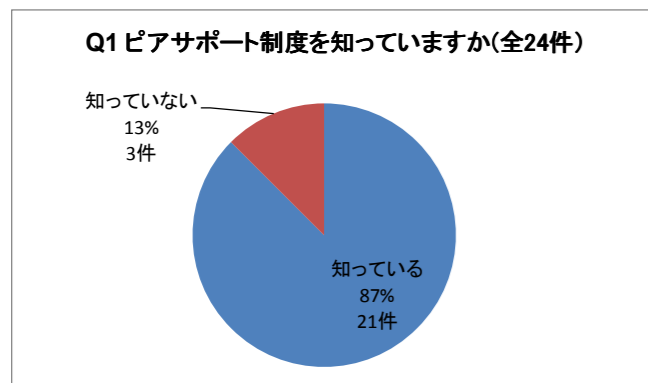
2008年7月下旬～（8月27日提出締切）

【アンケート配布先】

学務部、多摩事務部、小金井事務部、大学院事務部、通信教育部事務部、学生センター、キャリアセンター、保健体育部、国際交流センター、総合情報センター、図書館事務部

【アンケート回答件数 計24件】

法学部担当、文学部担当、経営学部担当、国際文化学部担当、人間環境学部担当、キャリアデザイン担当、デザイン工学部担当、GIS担当、SSI担当、教養教育担当、経済学部事務課、社会学部事務課、大学院課・専門職大学院課、通信教育部通教事務課、学生センター（市ヶ谷・小金井）、キャリアセンター（市ヶ谷・小金井）、多摩保健体育部、国際交流センター、総合情報センター（市ヶ谷・多摩・小金井）、図書館事務部（全キャンパス共通）

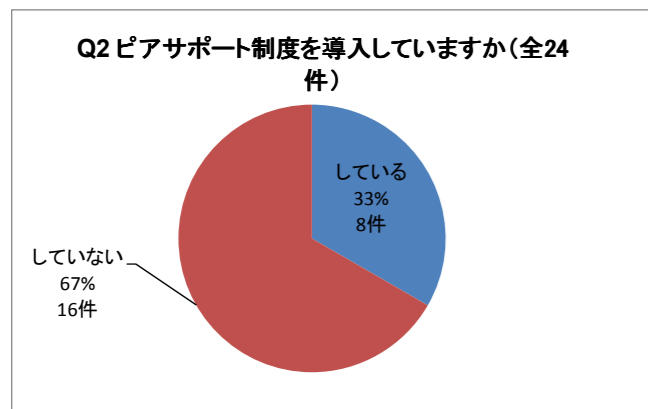


●知っている（87%・21件）

法学部担当、文学部担当、経営学部担当、国際文化学部担当、人間環境学部担当、キャリアデザイン担当、デザイン工学部担当、GIS担当、SSI担当、教養教育担当、経済学部事務課、社会学部事務課、大学院課・専門職大学院課、通信教育部通教事務課、学生センター（市ヶ谷・小金井）、キャリアセンター（市ヶ谷・小金井）、国際交流センター、総合情報センター（市ヶ谷）、図書館事務部（全キャンパス共通）

●知らない（13%・3件）

総合情報センター（多摩・小金井）



●している（33%・8件）

経営学部担当、キャリアデザイン担当、GIS担当、学生センター（市ヶ谷・小金井）、国際交流センター、総合情報センター（多摩・小金井）

●していない（67%・16件）

法学部担当、文学部担当、国際文化学部担当、人間環境学部担当、デザイン工担当、SSI担当、教養教育担当、経済学部担当、社会学部担当、大学院課・専門職大学院課、通信教育部通教事務課、キャリアセンター（市ヶ谷・小金井）、総合情報センター（市ヶ谷）、図書館事務部（全キャンパス共通）

Q14～Q16

ピアサポート制度を導入していない

（16件）回答 →（P6・7）

Q3～Q13

ピアサポート制度を導入している

（8件） →（P2～5）

ピアサポート制度を導入している（8件） ※学生センターは市ヶ谷と小金井が共通のため、1団体として作表

Q3 支援する側の学年は指定していますか

| | |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------|
| 経営学部担当 | 学部2・3・4年生 |
| キャリアデザイン学部担当 | 学年は指定していない |
| G I S 担当 | 学部2・3年生 |
| 学生センター (市ヶ谷・小金井共通) | 【新入生サポーター制度・新入生合宿（以下、サポーター制度・合宿に略）】 学部2・3・4年生 【学生支援G P】 |
| ※2種類の取り組みを別々に表示 | 学年は指定していない |
| 国際交流センター | 学年は指定していない |
| 総合情報センター（多摩） | 学年は指定していない |
| 総合情報センター（小金井） | 大学院修士課程（全学年）、大学院博士課程（全学年） |

Q4 支援する側の学生は何人ですか

| | |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 経営学部担当 | 10～20名 |
| キャリアデザイン学部担当 | 20～40名 |
| G I S 担当 | 2～3名 |
| 学生センター (市ヶ谷・小金井共通) | 【サポーター制度・合宿】 32名（新入生合宿スタッフ+新入生サポーター） 【学生支援G P】 スタッフ登録者約150名（常時参加50名程度） |
| 国際交流センター | 20～30名 |
| 総合情報センター（多摩） | 14名（TA5名・夜間アルバイト9名） |
| 総合情報センター（小金井） | 24名 |

Q5 支援する側の学生の募集期間はいつですか

| | |
|-----------------------|------------------------------------------------|
| 経営学部担当 | 4月ごろ |
| キャリアデザイン学部担当 | 前年度12月ごろ（としているが、随時募集している） |
| G I S 担当 | 前年度3月ごろ |
| 学生センター (市ヶ谷・小金井共通) | 【サポーター制度・合宿】 前年度1～3月ごろ 【学生支援G P】 随時募集 |
| 国際交流センター | 4月・9月ごろ |
| 総合情報センター（多摩） | 前年度1月ごろ |
| 総合情報センター（小金井） | 前年度1月ごろ |

Q6 支援する側の学生の所属は限定していますか

| | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 経営学部担当 | 限定している（経営生のみ） |
| キャリアデザイン学部担当 | 限定している（キャリア生のみ） |
| G I S 担当 | 限定している（G I S / I G I S 生のみ） |
| 学生センター （市ヶ谷・小金井共通） | 【サポーター制度・合宿】【学生支援G P】 限定していない |
| 国際交流センター | 限定していない |
| 総合情報センター（多摩） | 限定していない |
| 総合情報センター（小金井） | 限定している |

Q7 支援する側の学生に対して事前研修を実施していますか

| | |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営学部担当 | 実施していない |
| キャリアデザイン学部担当 | 新入生履修相談会（キャリアアドバイザー等による） オリエンテーション合宿（担当教員による） |
| G I S 担当 | 実施していない（実施要領のみ指示） |
| 学生センター （市ヶ谷・小金井共通） | 【サポーター制度・合宿】（全て学外の専門講師による） ① コミュニケーション研修 ② アサーショントレーニング（身近な人と人間関係を結ぶ） 【学生支援G P】 実施していないが、上記受講を勧めている。 |
| 国際交流センター | 実施していない |
| 総合情報センター（多摩） | 実施している → 夜間アルバイトに対しては、授業期間開始前に事務職員と夜間アルバイト経験者が業務内容の通達と現場の確認を行っている。 |
| 総合情報センター（小金井） | 実施していない |

Q8 「学生による学生支援の制度」では具体的にどのような支援を行っていますか

| | |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営学部担当 | <ul style="list-style-type: none"> ・経営学部学術委員会によるゼミ説明会（20名） ・2～4年生が新1年生に行う履修登録補助（10名） |
| キャリアデザイン学部担当 | <ul style="list-style-type: none"> ・新入生履修相談会ピアアドバイザー ・オリエンテーション合宿サポーター（新入生対象） ・学部国際交流サークル（COM）→留学生の一般学生の相互支援活動 ・ノーボーダー→在日朝鮮・韓国人学生と留学生、一般学生の相互学習活動 ・A I T O C（アイトック）→大学生と中・高校生との交流・相談会実施 |
| G I S 担当 | <ul style="list-style-type: none"> ・履修登録時に科目の選択方法や時間割の組み方についてアドバイスや質問への対応を行う。 |
| 学生センター （市ヶ谷・小金井共通） | <ul style="list-style-type: none"> 【サポーター制度・合宿】 ・新入生合宿：新入生がコミュニケーション・チームワークについて学び基礎的な力を身につける。先輩スタッフも参加し、グループワーク等と一緒にを行う。 ・新入生サポーター：入学後間もない1年生の分からないことや不安を先輩サポーターによって解決してもらう。 ・林業体験：環境に対する意識の向上・チームワーク・ボランティア精神等を養うことを目的とし、埼玉県で「法政の森」づくりを行う（08年度実施のため、まだ学生スタッフはいない）。 |

| | |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>【学生支援G P】</p> <p>・①エンパワーメントプロジェクト ②課外教養プログラムプロジェクト ③キャリア支援プロジェクト ④障がい学生支援プロジェクト ⑤同郷会プロジェクト ⑥ピアサポートプロジェクト ⑦ボランティア支援プロジェクト 以上の各プロジェクトにおいて、学生スタッフ（全学年混成）がミーティング等を通して、「学生の力」で在学生対象のイベントや講座等の企画を考え、実施・運営まで行っている。</p> |
| 国際交流センター | <p>・新入生（私費外国人留学生）に対して学部のオリエンテーション前に、留学生独自のオリエンテーションを行う（学生生活全般の説明・キャンパスツアー・交流会）</p> <p>・特に新入生に対する履修登録のアドバイスやレポート作成の日本語指導など</p> <p>・各種イベントの実施（留学生同士、留学生と日本人学生の交流が目的）</p> |
| 総合情報センター（多摩） | <p>・パソコン（ハードウェア・ソフトウェア）、プリンタ、マルチメディア機器の利用相談。ノートPC、ビデオカメラ、プロジェクタの貸出返却作業。</p> |
| 総合情報センター（小金井） | <p>・小金井キャンパスおよび市ヶ谷田町校舎における、情報教室授業および貸与ノートパソコンに関するサポート業務、その他パソコン、マルチメディアに関する利用相談業務（ソフトウェア利用相談含む）。サポート室に設置されている大型プリンタおよびスキャナなどの機器利用補助業務。ソフトウェアおよびデジタルカメラ、デジタルビデオカメラその他機器の貸出業務。</p> |

Q 9 支援される学生（対象）はどのような学生ですか

| | |
|-------------------------------|----------------------------------------------|
| 経営学部担当 | 新入生 |
| キャリアデザイン学部担当 | 新入生（相互支援を心掛けている） |
| G I S 担当 | 新入生 |
| 学生センター （市ヶ谷・小金井共通） | <p>【サポーター制度・合宿】 新入生</p> <p>【学生支援G P】 全学生</p> |
| 国際交流センター | 外国人留学生（全学年） |
| 総合情報センター（多摩） | 多摩キャンパス所属の学生すべて |
| 総合情報センター（小金井） | 理工系学生および大学院に所属する全学生 |

Q 10 この制度を導入してどのような効果がありましたか

| | |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営学部担当 | 未記入 |
| キャリアデザイン学部担当 | <p>・多くが学生の自主活動を学部として、あるいは学部教員個人（複数の教員）が支援している。支援された側が、次は自分が支援する側に回りたいと考える学生が少なくない。学生の自律性が養えていると考える。</p> |
| G I S 担当 | <p>・学生という共通の立場での経験をもとに、より具体的、実質的なアドバイスが可能となり、履修登録のミスを少なくすることができた。</p> <p>・学生間のコミュニケーションを図る場にもなり、新入生と上級生とが交流を深める機会となった。</p> |
| 学生センター （市ヶ谷・小金井共通） | <p>・クラス・サークルと違った新たな学生同士のつながりができている。</p> <p>・実際に学生の企画・運営によるプログラムが数多く実現している。</p> <p>・学生の大学に対する生の意見を聴くことができる。</p> <p>・学生のニーズに合ったプログラムが実施できる。</p> |
| 国際交流センター | <p>・今年の5月から試験的に実施しており、また、本格始動するのは秋以降の予定であるため、効果はこれから出てくることを期待している。また、学生スタッフの意向を尊重しながら実施していく予定なので、今後、上記の回答から内容が変更となる可能性もある。</p> |
| 総合情報センター（多摩） | <p>・学生と同年輩のTA、夜間アルバイトがカウンターにて対応することにより、利用者側から見て、質問がしやすい環境が作り出されている。また、TA、夜間アルバイトにとっても、幅広い質問に対応することにより、各自のスキル向上が行えている。</p> |
| 総合情報センター（小金井） | <p>・理工系学部の情報教育において、課外におけるきめ細やかなサポートが可能になり、ハードウェア、ソフトウェアの有効利用、よりよい学習環境の実現に寄与している。大学院生がサポートを担当することで、より利用しやすい環境を実現できている。また、サポート担当の大学院生自体も幅広い質問に対応するためより多くの知識を身に付ける必要があり、彼ら自身のスキルアップにもつながって好循環を生み出した。</p> |

Q 1 1 この制度を実施する上で問題点はありますか？

| | |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営学部担当 | ない |
| キャリアデザイン学部担当 | ある →「まず活動する」というところも見受けられ、活動のための活動となっている学生もいると指摘する教員もいる。ごく一部で、ノリのいい学生についていけない学生もいる。 |
| G I S 担当 | ない |
| 学生センター (市ヶ谷・小金井共通) | ある →学生の提案を断る際、理由を明確にしたうえで納得させる必要がある。 →学生の思い込みがある場合、これを払拭する作業が大変。 →教員組織との関わりが希薄。 →学生間の諍いがあった際のリードが難しい。 |
| 国際交流センター | ない |
| 総合情報センター (多摩) | ある →夜間アルバイトの給与が低額なため、人材の確保が難しい。 |
| 総合情報センター (小金井) | ない |

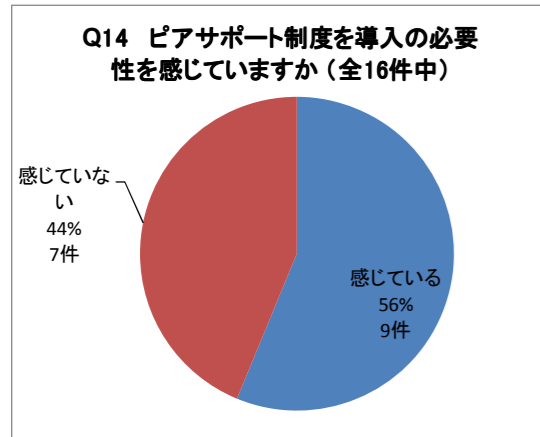
Q 1 2 支援をしてくれた学生に対して、謝礼などの報酬は与えていますか

| | |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営学部担当 | 与えている →大学規定による日給・時給に準じている |
| キャリアデザイン学部担当 | 与えていない |
| G I S 担当 | 与えている →図書カード (2000 円程度) |
| 学生センター (市ヶ谷・小金井共通) | 【サポーター制度・合宿】 図書カード (新入生サポーター3000 円、新入生合宿スタッフ 10000 円) 【学生支援G P】 年度末に図書カードを謝礼として支給。 |
| 国際交流センター | 現在は与えていないが、将来的には与える予定 |
| 総合情報センター (多摩) | 与えている →TA は TA 給、夜間アルバイトには臨時職員給を支払っている。 |
| 総合情報センター (小金井) | 与えている →TA として採用しており、給与を支払っている。 |

Q 1 3 「学生による学生支援の制度」について今後の計画 (予定) を教えてください。

| | |
|-----------------------|------------------------------------|
| 経営学部担当 | 現状のまま実施 |
| キャリアデザイン学部担当 | その他 (学生としてふさわしいものであれば、可能な限り支援していく) |
| G I S 担当 | 現状のまま実施 |
| 学生センター (市ヶ谷・小金井共通) | 【サポーター制度・合宿】【学生支援G P】 さらに拡大していく |
| 国際交流センター | さらに拡大していく |
| 総合情報センター (多摩) | さらに拡大していく |
| 総合情報センター (小金井) | 現状のまま実施 |

ピアサポート制度を導入していない（16件）



導入の必要性を感じている
(56%・9件)

導入の必要性を感じていない
(44%・7件)
↓
次ページ

Q15 「感じている」とお答えになった方のみ） どのようなことを支援内容に含めたいと考えていますか？

- 留学生の学習および学生生活支援。現在は教員のボランティア的な活動でカバーしている部分を制度化する（社会学部担当）
- 障がい者支援、新入生への支援（経済学部担当）
- 地域入試の拡充とともに、地方から上京し、親元を離れ、一人暮らしする学生が増加している。生活ペースも異なり、孤独になりがちな学生へのケアが必要。県人会の一日も早い成立、活動開始が望まれる（国際文化学部担当）
- 1、院生アドバイザー制度：①テーマをしぼる、②調べる（文献・情報の収集）、③読む、④考える、⑤書く（表現する）、という学習のプロセスに応じた指導が教員だけでなく上級生（院生）によって行われれば、学部学生の学習効果をいっそう高めることができる。
2、ラーニングコモンズ：電子情報と印刷情報の両面を利用しながら、学部学生同士がコンタクトをとれる場、さらには学習のサポートを受けられる場の提供は、広い意味でのピアサポートととらえることができるだろう（図書館事務部 全キャンパス）
- 一般論として、学生同士が教え、学びあう場の品質が、学校の品格（＝価値）を決める構成要素の一つであると考えられるため、必要性を感じています。しかしながら、学生の選択するテーマによっては正課授業を企画運営している市ヶ谷情報センター授業委員会との調整が必須であり、加えてインターネットを介するものについては、世界に対して一定の責任者を置く必要があることから、プロジェクトを担当する教職員の投入が必要です（市ヶ谷総合情報センター）
- 1、身障者が安心して授業を受けられる環境の整備。
2、留学生と日本の学生の交流の機会の設定。（国籍や言語の違いのため、思うように他学生とのコミュニケーションを図れない留学生が増加し結果的に孤立してしまうケースが発生しているため。既存の制度では、留学生と日本人学生との交流まではカバーしきれていない（文学部）
- 体育会に所属するアスリートに対するサポート体制の構築を検討している。
現在、体育会の部員は経験則のみで日常の食事の管理から身体のケアまで行っている。SSIの授業を通して、科学的トレーニング方法などを教える機会があり、ある程度成果をあげてはいるが、SSI生に限定されており、支援体制の拡大が必要である。ここでは主に部内のマネージャー等に対して、アイシングの方法やテーピングの巻き方など実践的な指導をする体制を構築し、学生アスリートのケアにあたってもらえるような仕組み作りを検討していきたいと考えている。*今後の委員会で議論を予定（SSI担当）
- 1、キャリアセンターの活用方法を周知する
2、キャリアセンターが企画運営するイベントの補助
3、学生サポーターと話したい学生へ対応（キャリアデザイン担当）
- 体育会の支援・応援（多摩保健体育）

Q16 「学生による学生支援の制度」を導入する計画はありますか？

- ある
→08年10月から（市ヶ谷キャリアセンター）
→院生による学習アドバイザー制度 09年4月ごろ、ラーニングコスモス 10年4月ごろ（図書館事務部 全キャンパス）
→09年11月ごろ（社会学部担当）
→未定であるが、検討中（SSI担当）
- ない（経済学部担当、国際文化学部担当、市ヶ谷総合情報センター、多摩保健体育）
- ないが、必要性は感じている（文学部担当）

導入の必要性を感じていない（7件）

Q17 「学生による学生支援の制度」を導入する計画はありますか？

●導入するとしたら

(1)新入生に対する科目履修登録時の相談（現在は学生センターが実施しているサポートの量的拡大と質的向上）

(2)HOP事前研修時のサポート

などで導入の検討が可能だが、必要性を強く感じているわけではない（法担当）

●学部として特に必要性を感じるような事態はなく、要望もでていない。大学として導入を検討している段階ならば、学部としてはそれを見てから検討したい（人間環境学部担当）

●教養教育担当および市ヶ谷地区教養教育運営協議会には直接所属している学生がいないため、このような取組をすれば正課授業内に限られるため（教養教育担当）

●通信学習を主体とし、年齢や職歴・学習歴の多様な学生が在籍する通信教育部では、ピアサポート制度の導入は難しい。なお、通信教育部には、在学生の自治組織である学生会が全国にあり、学習会を中心とした活動を行っている。しかし現在では、活動に参加する学生数が減少し、活動休止の支部が多く、今度学生会活動の活性化は見込めない（通信教育部）

●理系はひとりひとりのサポートが行き届いていると感じる（キャリアセンター小金井事務部）

●TA制度が充実しているため（デザイン工）

●回答なし（大学院課・専門職大学院課）

導入手順についてのモデル提案

実際にサポートを実施している学部／部局は「効果がある」と判断し、今後も現状通りもしくは拡大方向で考えています。ピアサポートの導入は決してハードルの高いものではありません。導入をこれまで検討してこなかった学部／部局でも、以下のような手順で導入を検討してみてもいかがでしょうか。

① 問題点の抽出，具体的なサポート内容や方法，サポート対象者などの抽出

ピアサポートを実施する目的（特定の支援対象に対する教職員の補佐が目的か，参加する学生自身の成長が目的なのか）の明確化が最重要です。教職員の立場から必要な目的を抽出するだけでなく，場合によっては，学生たち自身からの要望を集約することも有効でしょう。その「目的」を達成するための手段として，どのようなサポート体制が必要かつ望ましいかについて吟味していくという手順がよいでしょう。

② サポーター候補者の人数，募集条件・方法，報酬，メリット（付加価値）の決定

人数：一人の支援対象者／一つのイベントに何人の学生が必要か？ 交替も含めてトータルでは何名必要か？

募集条件：限定募集か？オープン募集か？ 既に獲得している特定のスキルの有無や学年なども。

報酬：ボランティアベースか？有償か？ 有償ならば経費の獲得・捻出や補助が必要。

メリット：参加学生が活動から得られるメリットは何？ スキル向上？友達作り？自己実現？就活に役立つ？報酬？

③ 支援期間・活動場所の決定

支援期間：短期か？長期か？学期はじめなどの特定時期に限定するか？

上記②の人数体制との関連も。

活動場所：学内の特定の場所で活動？臨時で設けるか？特定の部屋付にするか？その確保も。

④ 募集の開始

ポスターやHPなど広報媒体の作成，情報公開，必要に応じて学部教授会やゼミ等を通じたの周知依頼。

応募人数によって選考を行う場合には，選考基準を作成し，募集要項に明示することが望ましいでしょう。

⑤ サポーターの決定と事前研修

サポーターが確定したら，必要に応じて，顔合わせと事前研修・説明会を実施。学生から見て，トラブル時にどの教職員に相談すればよいのかも明確に。事前研修・説明会は，長期間の活動の場合には，前任あるいは現役先輩サポーターによる実施も効果的です。

⑥ サポートの開始

学生にサポートを丸投げしたままにせず，定期的に意見交換の場を設定することが望ましいです。

【導入の考え方のポイント】

- 最初から多数の学生を巻き込んだ大きなサポート体制を目指すのではなく、まずは支援を必要とする特定の学生に対して小規模で構わないので確実なサポートをしていきます。随時、参加学生から情報を得られるようにしておきます。

↓

- 十分な成果があると判断できた場合、実施体制に関する反省・要改善点を踏まえ、サポートの拡大を検討します。